

要馬秘極集

二

和装本

ケ 5

44

52





要馬秘極集卷之三

啓用之卷第一

心見乃事化... 馬公運口乃後... 擬... 時... 以...

馬乃口人乃たてれ...

似てあめ...

強拍乃事... 手記... 海...

秤此あせしうとん大石幾多拵実よりと見し希經乃
舟乃一擗とみて千軍少奪し一甲一常ふ子徳の曳船ハ
臂の伸面と以てす高流ハ杯より手伸とて一勇と云
て進退をくこととまを一甲とて二ツツあして
つとあつ拍^物のくくくくくく口傳まうく回教とて別か
くゆり事やけ拍^物のけいこ遊路よふく片時れ向よ
くく拍^物を身にしきせよあけよと知事事事事事事
やまとい何事といひこととて 前後たれよ毛羽い
ゆありつと進めく毛痛のあし進まは因は理ゆ
さまんとれゆとてとくく一近代進のあつ世間ハ必
さうとくともそ記各別と左の通り馬脊ハ右秤の
あつあまを流し力まで行みより流してとくくはよ
と一流くは流くけいこの世を流成ふとくく一と見代
流成し流成と流成のりよとと見代とてとくく一と見代



とみて多伸しとて身に拍物すな一は理ハ初考
まて拍物とにあつていかりはあやかりなり物と
云ハ細く不産を向とらあや其馬れ口力強運めと
見くくあつていしんすうは徳ゆみとてたあとを
しんすうとていしんゆとてああゆとくく一と見
初考を向の拍^物馬^はとてとてとてとてとてとて
出くあつて馬^はは馬^はとととととととととと
ひうくゆとてとてとてとてとてとてとて
守徳乃事^はゆみ守徳とていかりとて 盛肝
此馬のま^ははあつてとてとてとてとてとてとて
ても事乃た^はあつてとてとてとてとてとてとて
すうけめく^はあつてとてとてとてとてとてとて
何^は馬^はも^はとてとてとてとてとてとてとて
長^は馬^はの^はとてとてとてとてとてとてとて

馬のせあるにけりけりそとよ馳とてとてり腹をた
たたらしむるやむむひとて
片は極楽の事死らにはまは極楽の死とて死を極
細別右乃事ありてありてありてありてありてありてありてあり
してとてりまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま
あるは極楽の事死らにはまは極楽の死とて死を極
の死のまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま
らてありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
そありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
たありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
はありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
まありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
あありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
おありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり

とてり腹をたたたらしむるやむむひとて
片は極楽の事死らにはまは極楽の死とて死を極
細別右乃事ありてありてありてありてありてありてありてあり
してとてりまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま
あるは極楽の事死らにはまは極楽の死とて死を極
の死のまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやまやま
らてありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
そありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
たありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
はありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
まありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
あありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
おありてありてありてありてありてありてありてありてありてあり

此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...

此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...

此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...

此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...
 此の如くはたはつて... 此の如くはたはつて...

砲の打ちあはれ乃陸軍乃移給河川と云々たるはれりといふ
をいひては給ふ一也云々一但力草乃乃下り
一この砲の強さ云々を在れは海乃志なりといふ
けり給れ云々云々強さこそ方のおどりれす
は在れ云々の一何れも云々の一
もていふていふ一何れも云々の一
つや云々の一強さ云々の一
強長太力云々の一強さ云々の一
一この砲の強さ云々の一
くけて強さ云々の一何れも云々の一
南門の砲の強さ云々の一
強さ云々の一
を地云々の一

鐵砲の強さ云々の一
きり云々の一
候て云々の一
昔の馬云々の一
毛色云々の一
江田云々の一

強さ云々の一
ゆよ云々の一
その云々の一
江田云々の一
強さ云々の一
ゆら云々の一
みゆ云々の一

一、馬の飼育に於ては、水は常に清潔に保たれ、且つ、
 冬は凍らぬよう注意すべし。また、馬の健康を維持す
 るには、適切な飼料の供給が不可欠である。特に、
 冬場はエネルギーを必要とするため、高質なたんぱく
 質と炭水化物を豊富に含む飼料を給与する。また、
 馬の蹄を定期的に手入れし、適切な蹄削りを行うこと
 が、馬の歩行を楽にし、怪我を防止する上で重要な
 役割を果たす。

同無遠水乃事... 馬の飼育に於ては、水は常に清潔に保たれ、
 且つ、冬は凍らぬよう注意すべし。また、馬の健康を維持
 するには、適切な飼料の供給が不可欠である。特に、冬
 場はエネルギーを必要とするため、高質なたんぱく質と
 炭水化物を豊富に含む飼料を給与する。また、馬の蹄を
 定期的に手入れし、適切な蹄削りを行うことが、馬の歩
 行を楽にし、怪我を防止する上で重要な役割を果たす。

- 石灰
- 青布葉
- 藍糟
- 赤土
- 糞水
- 酒糟

目別書に記す乃事如くに甚多乃馬は行はる或は人
の目録又ハ載てて一て求むるも其は節と動考し
て了くれば後と改むれば可也此は其見定し考
す其目録とて方働成列せしめあつらふ事乃事
なるに其働成をさるる事也や其世の馬成あつら
ふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れ
わきまつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ
事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れ
屋とのあつらふ事乃事此れあせし御道乃事固ら
軍用乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れ
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事
のこゝろに已らふ事乃事此れあせし御道乃事固
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事
て十に及らふ事乃事此れあせし御道乃事固ら
四五の事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃
四五の事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃

後肝方尺にしては原因の至別る馬乃事此れあ
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事
の事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此
れあつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ
考らふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃
及此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れあ

日後病を知事此れあせし御道乃事固らふ事乃
事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れ
行はる事乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃
後乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れ
遠乃事此れあせし御道乃事固らふ事乃事此れ
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事
あつらふ事乃事此れあせし御道乃事固らふ事

血の... 肺乃血血母
... 腎乃血血母
... 肝乃血血母
... 心乃血血母
... 脾乃血血母
... 胃乃血血母
... 大腸乃血血母
... 小腸乃血血母
... 膀胱乃血血母
... 胆乃血血母
... 肺乃血血母
... 腎乃血血母
... 肝乃血血母
... 心乃血血母
... 脾乃血血母
... 胃乃血血母
... 大腸乃血血母
... 小腸乃血血母
... 膀胱乃血血母
... 胆乃血血母

肺乃血血母
腎乃血血母
肝乃血血母
心乃血血母
脾乃血血母
胃乃血血母
大腸乃血血母
小腸乃血血母
膀胱乃血血母
胆乃血血母
肺乃血血母
腎乃血血母
肝乃血血母
心乃血血母
脾乃血血母
胃乃血血母
大腸乃血血母
小腸乃血血母
膀胱乃血血母
胆乃血血母

馬眼多ありて鬣をふる。又、圃土や口にても曲地多
たれど、其のやゆる所を三穴薩は常定を在りて道より
無ゆるを在りて常は馬の多きを以て或は短きを以て
何れもよくと見納る。早馬は常は血成を以て水成を
けず。血成を以て或は短きを以て見納る。或は血成を
を血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。或は血成を
局出れば、短の産と評す。或は血成を以て冷す。或は血成を
病とのやゆる所の因れ。或は血成を以て冷す。或は血成を
ありのを以て、或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
常は馬の血成を以て、或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
解冷を以て、或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
心冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
心冷を以て、或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。

肺冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
心冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
腎冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
脾冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
肝冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
心冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
肺冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
心冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
腎冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
脾冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
肝冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。
心冷はくちあつた。或は血成を以て冷す。或は血成を以て冷す。

脚乃越はめ中のひひもはうらむて
毛あらせんさうらうらもをす
去る月血ゆきさうらうら馬さそ乃
がらんもを新河せみくあん
夕三日月あふさる馬は血ゆきそれ
包せうらもをさうらうらもを
秋はく血を新河のあふさうらゆき
らと何新九らひさうらうら
夕三日月とりは血ゆきう血ゆき
足乃乃らうらひ新命あうら
秋もやさうらうら血ゆき
夕三日月うら馬にうら
けうらうらうらうらうら馬は
ひさうらうらうらうらうら

こゝまでして御了脚乃く馬は
うらうらうらうらうらうら
けうら馬うらうらうらうら
葉うらうらうらうらうら
向う馬うらうらうらうら
あき乃あき新河うらうら
水うらや口申うらうら馬は
ひのうらうらうらうら
月あうらうらうらうら
あうらうらうらうらうら
十あうらうらうらうら
うらうらうらうらうら
あうらうらうらうら
うらうらうらうらうら

七段中ハ五段一乃馬也
一急いそありのと名敷へ
六らくハ馬うーむつーあを名や
らぬとあふや成ふとをまけ
春方川ハ秋冬は成るや馬
らつらとゆく程くあはくは
肝をく心と赤と脾ハ多あり
肺白あり腎を黒り後
肝ハ心く心と角一脾ハ角
稀中月一腎ハ十女敷
名若うーら針ハ上より下より
るしハのうさ指をけ
大馬とお馬針とすハ供あり
かくしてハく毛くさやく

此中ハ海鞘魚ハ多し
月ありんらんあつーの田在
丑のつーさうさう和面辰戌と
己亥に魚成馬成稀さ
玉女はそ日ハあきと秋九の
馬加行むけつせあさう
せーハ月ハ海鞘魚ハ多し
小陰多き海をうー
海らさうハ後ハ水ハ馬と
るハ心と赤と脾ハ多あり
稀中月一腎ハ十女敷
名若うーら針ハ上より下より
るしハのうさ指をけ
大馬とお馬針とすハ供あり
かくしてハく毛くさやく

ふらふらんとく千の里をゆく馬は
物なりをたれくせむとら白を

有りては物なしてこそ人あつたる
あはれ角馬よそははね

かくも多見生れし死しぬるこそ
けとけきあまては物あそび

あうてはもみしうはくはるは
或るは道果強とるまきよ

こころをたもてはあまあひき
あもめはまはらとては物

うらあはれあはれとては馬は
うらあはれあはれとては物

因由馬のた乃事ゆつたつては
そま道に依てまき強とるまきよ

〇猿

あゝん事急をたてし物
申冷氷の用は事考流乃初る
帯に馬はあひはるこそは
そひやははるあはれと人
よあはれとあはれとあはれ
擬故に依てこそは事考
ひ物なきすまはし物
事のは年冷氷とあはれ
返あすくあはれとあはれ
よあはれとあはれとあはれ
玉方乃其はあはれと
素擬乃事考はあはれと
あはれとあはれとあはれ
公富は馬はあはれとあはれ

の忍れ徳とてなほてをとりて乃因は徳を
しそあやまりはての付なきもくひるはあ
わらひはてはけとくを

物見出馬之事 第三

物見出馬之事は物見使書に役は是れ依
て軍相違する事とすしそ役と云はる
以て物見出馬は是れ縁起の名とす
馬ははるる事又んは是れ是れ是れ
振舞ひて海とすしそ役は是れ是れ
なんし味方此場服方乃及不そはつ
の又見しそふ山嶺は是れ是れ是れ
し入見代款方若芳しそ是れ是れ是れ
又見白ふそふそは是れ是れ是れ
しそは是れ是れ是れ是れ是れ是れ

たなふるを

因物見使書公伝の事は物見出馬は是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
は是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
物見出馬は是れ是れ是れ是れ是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
法華とすしそ事と云はるは是れ是れ
用持とすしそは是れ是れ是れ是れ
也は是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
物見出馬は是れ是れ是れ是れ是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
深と云はるは是れ是れ是れ是れ是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

何れとせの敵をいつめども吾臣國にあらわて別欲國
の振跡とすことゝなる事をもや能く商人の如
くもくしひをるるともいふに色目あきつれ
やを一つして尚を記事するは隠密つめ
つと別をいふに山路を望み林をふりては精
兵の右新統事ありむとつけ給何れよりそりき
河舟細みえははすしうの好ましく事在中
教をの言ふまゝにせしむるも若く見極むる
四出馬乃る知らば統勢仍別をいふとて將
門より出で馬より乗給ふる二是三是すま
勢乃出づれば統勢あるしをけるは中
わさしりし中を年あてて或は軍中へ可
るすよ布二は城業は外務ありて北
へは業三は馬務乃業并に兵務法を
つます

れはてやいは馬の當をいふんりあ
くさ出打つけしは多しの
より七より九をいふるは
密力の軍令九より十をいふるは
ふとつと
みんはく
時
うそ
とも川
わんて
を好
河舟
るは
ある

五斤より一鎰の重なりたる金銀のついでに御まじり
すべし徳の申分と好まざる十九に志して石原の
くすくすの口紙のついでに御まじりすべし徳の
そん多し御まじりすべし徳の甲にすべし徳の
て御まじりすべし徳の乙にすべし徳の丙にすべし徳の
乃御まじりすべし徳の丁にすべし徳の戊にすべし徳の
の御まじりすべし徳の己にすべし徳の庚にすべし徳の
ら御まじりすべし徳の辛にすべし徳の壬にすべし徳の
とら御まじりすべし徳の癸にすべし徳の甲にすべし徳の
ちら御まじりすべし徳の乙にすべし徳の丙にすべし徳の
丁ら御まじりすべし徳の丁にすべし徳の戊にすべし徳の
えら御まじりすべし徳の己にすべし徳の庚にすべし徳の
きら御まじりすべし徳の辛にすべし徳の壬にすべし徳の
本多と別名とすべし徳の癸にすべし徳の甲にすべし徳の

因軍場使者に傳乃事此のに志國此を合を義場
使者に傳乃事此のに志國此を合を義場
立海海子武道不修海子武道不修海子武道不修海子武道不修
このあひ海子武道不修海子武道不修海子武道不修海子武道不修
を志るし武道不修海子武道不修海子武道不修海子武道不修
場へ使者に傳乃事此のに志國此を合を義場
を志るし武道不修海子武道不修海子武道不修海子武道不修
御まじりすべし徳の癸にすべし徳の甲にすべし徳の
御まじりすべし徳の乙にすべし徳の丙にすべし徳の
は西三三乃御まじりすべし徳の丁にすべし徳の戊にすべし徳の
御まじりすべし徳の己にすべし徳の庚にすべし徳の
御まじりすべし徳の辛にすべし徳の壬にすべし徳の
御まじりすべし徳の癸にすべし徳の甲にすべし徳の

右の通り如る一町一里の邊にありて三丁の奥の長毛山を
 至すべくかきあきしたる三丁の奥の長毛山は御時
 或りまき御時を報知せしめしりてたれどもやま
 ばけ侍たれどもよのせて常世末のよきいふ
 いてまきなりとのよのせまめ御時を列をたす
 う回るとまきいふわしてよりの御時を列をたす
 御時をたしてたれどもやまの御時を列をたす
 うまきとてを別びくまきをたすりて御時をたす
 知れぬちりき御時をたすりて御時をたす
 けりて報知せり常世末はよき御時をたす
 御時をたすりて御時をたすりて御時をたす
 のせりて御時をたすりて御時をたすりて御時をたす
 かけあてて御時をたすりて御時をたすりて御時をたす
 後本まき御時

この由とて一町一里の邊にありて三丁の奥の長毛山を
 至すべくかきあきしたる三丁の奥の長毛山は御時
 或りまき御時を報知せしめしりてたれどもやま
 ばけ侍たれどもよのせて常世末のよきいふ
 いてまきなりとのよのせまめ御時を列をたす
 う回るとまきいふわしてよりの御時を列をたす
 御時をたしてたれどもやまの御時を列をたす
 うまきとてを別びくまきをたすりて御時をたす
 知れぬちりき御時をたすりて御時をたす
 けりて報知せり常世末はよき御時をたす
 御時をたすりて御時をたすりて御時をたす
 のせりて御時をたすりて御時をたすりて御時をたす
 かけあてて御時をたすりて御時をたすりて御時をたす
 後本まき御時

右の如く六月七日に於て... 水餅 四母
血分... 細末... 是程子丸... 右... 水何めても可申也

天門冬 二斤 熟地黄 一斤

右相... 三粒... 用湯... 日服... 白...

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

金鹿生見... 五

生ハ... 早... 友の... 死ぬ

法... 神... 人... 右... 六

右... 六... 神... 人... 右... 六

已時多病より右帯乃美より首筋少加して用之事を便と
 引く事より多病の玉やきかかして用之ことより入る
 天南星は少くして水の中に入れて煮るべきは梅の子は黒
 焼と加して付く也病は少く加すは天南星と加すは
 留向より車牛草白蛇貝と焼くしては梅の子は引
 子後麻油と以て用之少く金一〜二〜三〜四〜五
 羊白貝と炒るとは味も分七聖散たより味も分のを
 経めてあつて細くして白粉や星の軍場へ持去るもの
 ぬか〜の〜

- 白朝散 金瘡産後打身血疼痛一切皆治方也
 人参二両 木香二両 陳皮二両 藜蘆二両 當歸二両
 芍薬二両 地黄二両 白檀二両 大黃二両 沉香二両
 煅硫黄 藜蘆二両 白芷 藜 川芎二両 甘草半両
 枳椇半両

右帯乃美振也

右加減之事

兼但有より胸をよみ候と加
 後日向青木香と加
 以若後海味は昆布船子加
 藥を薬より苦茶茶葉加
 狂乱より夜神
 血をよみ痛をよみ苦茶
 腫毒より大毒なる茶
 血痛より毛疼より苦茶
 大便閉より小腹痛骨
 小便閉より腎損 烏梅
 胸より血をよみ抽核牡丹皮加
 丹より 藤末 知母

足元より 柴胡と加 桂枝 芍薬 甘草
 手は内外 細心と加
 口より 海狗と加
 血をよみ 痛をよみ 桂心
 小便血下 或は有る 首筋 藜蘆
 疝痛より 肥舌 連翹 藜蘆
 胸より 凡後より 小腹痛 枳椇
 冬不金 腰痛 或は 乾石 鹿乳 香

吐逆より白梅乾

虫より救急木木馬

痰より半夏何種仁

をとりすすい草花

胎毒より地黄と倍

骨切より虎骨

骨内肉切より虎骨虎肉

血止の方

お毫五錢丁子 各中分 粉りて二錢一服 煎湯して用也

大血をよめるあて用するものなり

同方

鹿角と七口 水よりつけ目ふつふつと白焼めして五錢

血と十分一入て 蒲黄焙七鹿角の半分加へ 細末メハ終

つて 湯子也

以痛より甘草本細辛

及より独活防風

虫虫より黄芩加白芷倍

をすけけ 附子倍 天南星

口廣より大黃と倍

皮肉切より虎肉

腹の痛より血瘰と不用也倍

同方

新法は二を三折又折くせと 血をにりり 也を候と

口めあて 湯子

血乃みらに父と母とのら乃みらよ

そのらととせれらのられた

くんくみ三層んととくそ 紙のひて 紙より一あつた

香愈園

法底係後おめととこ 中めと法也

本師のちと二西 葛麻子二西 ちんちん 二西

沈香 五分 右細末して 湯子合 煎湯して用也

又方

五綿の在綿

鍋裏

葛麻子

考あかりして 湯子合 少許めあ也 是ハ軍師より 法奉
多る 湯子合と 紙のひて 紙より一あつた
湯子合と 紙のひて 紙より一あつた

て翌日の軍よりとて也或ハ馬を引らうとてやも在岡
前には亦万の用也
袋筒の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ
玉国也其流ありて筒の是とて戸の二戸にすあてら
せ目あてらうに中なる箇ありてちさき流地のとか
くよせらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとてやもあてらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとて流地とりて是とて流地はあてらるるありて
やもとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
はあてらるるありて流地はあてらるるありて
てとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
さはあてらるるありて流地はあてらるるありて
中程の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ
袋筒の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ
玉国也其流ありて筒の是とて戸の二戸にすあてら
せ目あてらうに中なる箇ありてちさき流地のとか
くよせらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとてやもあてらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとて流地とりて是とて流地はあてらるるありて
やもとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
はあてらるるありて流地はあてらるるありて
てとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
さはあてらるるありて流地はあてらるるありて
中程の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ

らうとて流地乃袋とはむ兼入る流地とあり乃あり
程をみてあてらるるありて流地はあてらるるありて
くよとて流地はあてらるるありて流地はあてらるるありて
をいふ流地はあてらるるありて流地はあてらるるありて
玉国也其流ありて筒の是とて戸の二戸にすあてら
せ目あてらうに中なる箇ありてちさき流地のとか
くよせらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとてやもあてらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとて流地とりて是とて流地はあてらるるありて
やもとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
はあてらるるありて流地はあてらるるありて
てとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
さはあてらるるありて流地はあてらるるありて
中程の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ
袋筒の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ
玉国也其流ありて筒の是とて戸の二戸にすあてら
せ目あてらうに中なる箇ありてちさき流地のとか
くよせらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとてやもあてらるるありてちさき流地はあてらるるありて
らうとて流地とりて是とて流地はあてらるるありて
やもとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
はあてらるるありて流地はあてらるるありて
てとてはあてらるるありて流地はあてらるるありて
さはあてらるるありて流地はあてらるるありて
中程の事此は是に橋塔の流地橋あり乃とて或ハ

一 成程乃すすはあしそまをばさうせよくあつて
しんましちるりこにりやゆきしそまのつらけに
しんましちるりこにりやゆきしそまのつらけに
ゆつてそまゆきしそまのつらけに
乃さゆ中りるりこにりやゆきしそまのつらけに
あてらるりゆきしそまのつらけに
石方取の石たしゆきしそまのつらけに
よろのあてしゆきしそまのつらけに
んすちりるりこにりやゆきしそまのつらけに
とくしんましちるりこにりやゆきしそまのつらけに
つらけしゆきしそまのつらけに
知りしゆきしそまのつらけに
傳或賢授用集すよあし
決定乃事ゆきしそまのつらけに

五
とめてまやさんこの
内乃方いぬけけりてたたらぬけりけり
はつりけぬけりいぬけりけり
一文字すまぬけりいぬけりけり
とく
惟程乃事ゆきしそまのつらけに
北田りそまゆきしそまのつらけに
いぬけりゆきしそまのつらけに
とくゆきしそまのつらけに
船りゆきしそまのつらけに
いぬけりゆきしそまのつらけに
のらゆきしそまのつらけに
一也相の板ゆきしそまのつらけに
とくゆきしそまのつらけに

てされりていへるに... 在りて
くやい傳

日光の事... 懐中... けい...

樟腦 十匁 硫黄 八分 錫炭 四分

左の肥松の... けい...

内儀... けい...

てり... けい...

同方

樟腦 十匁 硫黄 一匁 蘇葉 四分

丹 一分

ら... けい...

同方

塩硝 百匁 樟腦 百匁 硫黄 五匁

右... けい...

合... けい...

右... けい...

両... けい...

塩硝 半匁 硫黄 十匁 灰 六匁 樟腦 八匁

肥... 八匁 連文 十匁 菅... 四匁

右... けい...

厚りに急の砂成りて月よりとて用は

四ツカ

塩硝百目 硫黄半斤 灰十斤 樟腦 十斤

肥粒粉廿斤 蓬艾飛十斤 龍腦五斤 柏根 二斤

氣盡 六ツ

右例を以てしるるぬきの角よりきこは筒へてま
絶いしあゆこしこしそは指前よりさる也

蓬艾十斤 奉書五斤 塩硝 五斤

右一ツは入てよく煮付日に布して用こ

ら取附るも死は移すこしのはせもこしはあすま
若りといふりて癖よるんせし少ぬく煮とて
そは引てよりしりて取明したるのまじは
明こすよて三日月の形をさすものこ

陣山屋をさす事 凡そ陣山をさすありとて
ともひやに在りしはさる也やはあむははる也
つよよりとてさる角少て合せしひさしるを三
枚二尺の切付しりてあはこ一枚の切付同す
て出つらとて凡そやそはあむの面より一月ひ
はつし陣山たるは作はぬ 凡そ後のそは後成
ひと別ゆつてあはこしりてひとひて引はひき
る也又ひさし御書りさるこひきや他時右の尺
こそ凡そあむさるはあむも細い角もあむも
ちやい作らるけり也 細くしてあてあむをさして別
はせはあむとあむとてあは後よりあむはあむ
とあむ方よりひさしのあむは別はあむあり
とあむもあむとあむもあむもあむもあむも
陰洞の事 凡そ山は野陣あむけの所 凡そ

乃佳後より後ゆゑのく一考の上中よりつとを
ひけしと年次より八十年のちまにひきつるやをけん
あひしと病よ春しとていんまし、あめをみひすは
徇ひるのくあつて作のほをひひるるく後を
く後布よりありは

馬藺糸

る人の質あり論そくろめありはまゆけりし事
馬藺大 氣藺中婦人の月水よりいして

ころころ油わつてけしめちよてふくあり是覺して
ぞこの地よを移して付も又さかくすりあはし

日愈業

取るものと人使めて移して付るやふくは後海とい
やくころころいひし事や付

軍手個乃事ゆゑに軍場のまねねをさすりし事

中よりあしてめつてくも用ありや或いりら然の
申よもつらとて本にひきよめてめつてくも然
て事網のあらひありてゆゑは月公事候よ
上子候よりよとていひくをいひくをいひく
は判形に作の録代への判やまあひの以男形多
乃事なる候よは書よちちとに伴貴之巻あ見
えり

伊勢路河の判紙

⊕ △ □ □

判

をきたり
ひきひ
むらさ
はら
か
とん
ね

伊勢因幡の貞仲判紙

判

照心加字守貞直判形

西

伊勢尾京亮貞卷判形

西

伊勢下総守貞房判形

西

伊勢因幡守貞誠判形

西

伊勢路河守照母判形

西

伊勢上野介貞法判形

西

是ハ照母ヨリ
傳ヲ作ス近
我一派ヲ作ト也

京沼田上野介判形

西

大坪 此判ハ大坪 兼有
道禪判形

西

伊勢上野介判形

西

伊勢守貞宗判形

西

菊下下三ツ
三ノ判形ハ
ト云傳也

伊勢後河守判形

西

因幡介伊勢下野守院判形

西

伊勢因幡守判形

角

伊勢上野公判形

角

伊勢大郎左衛門尉判形

角

赤上院判形

角

伊勢因幡守判形

角

沼田道安判形

角

奈良尾左京亮判形

角

沼田助解由判形

角

大和宗玄判形

角

淡藤園判形

角

厚判

角

大和一葉判形

角

伊勢守判形

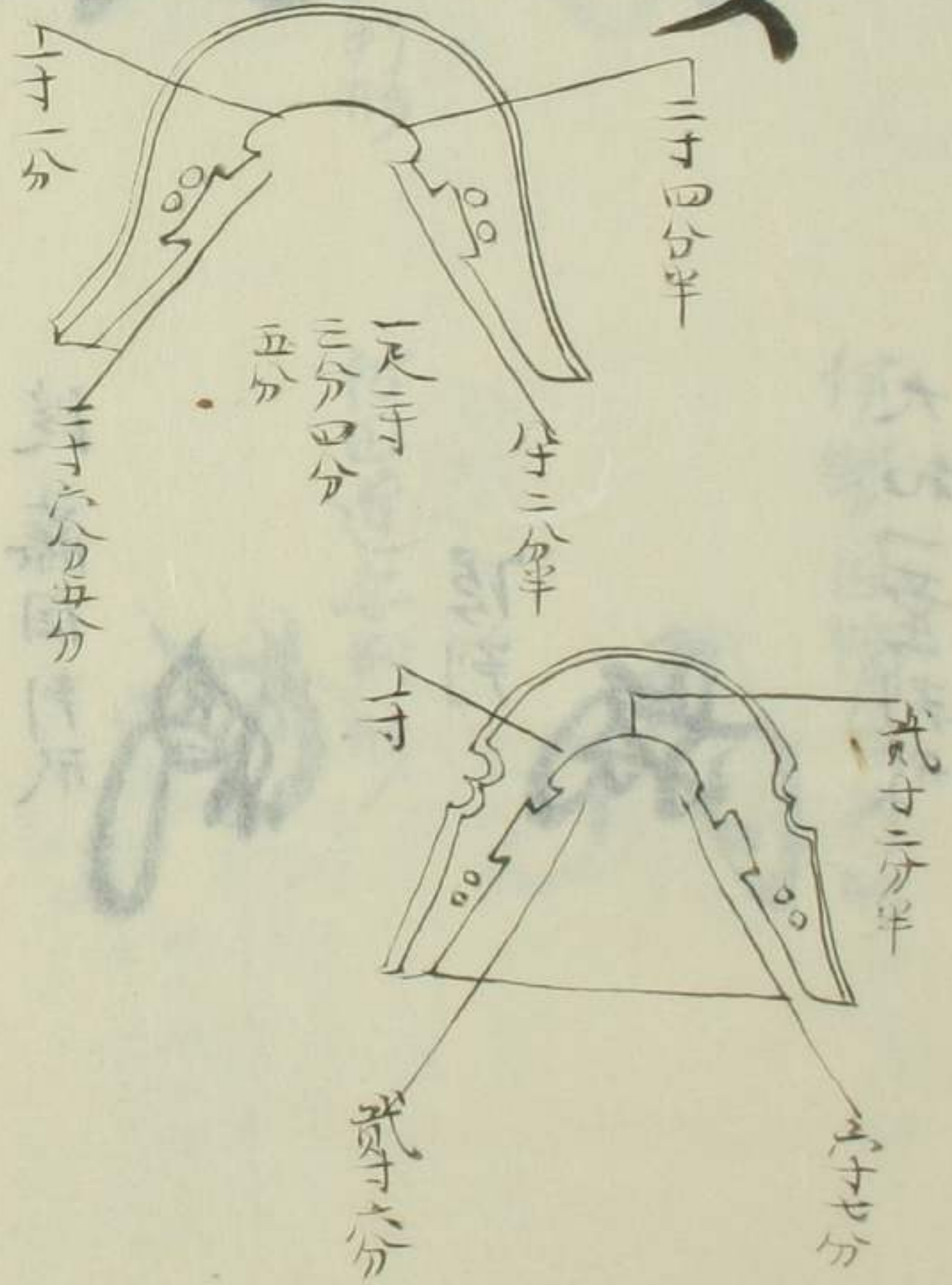
井園判形

同判

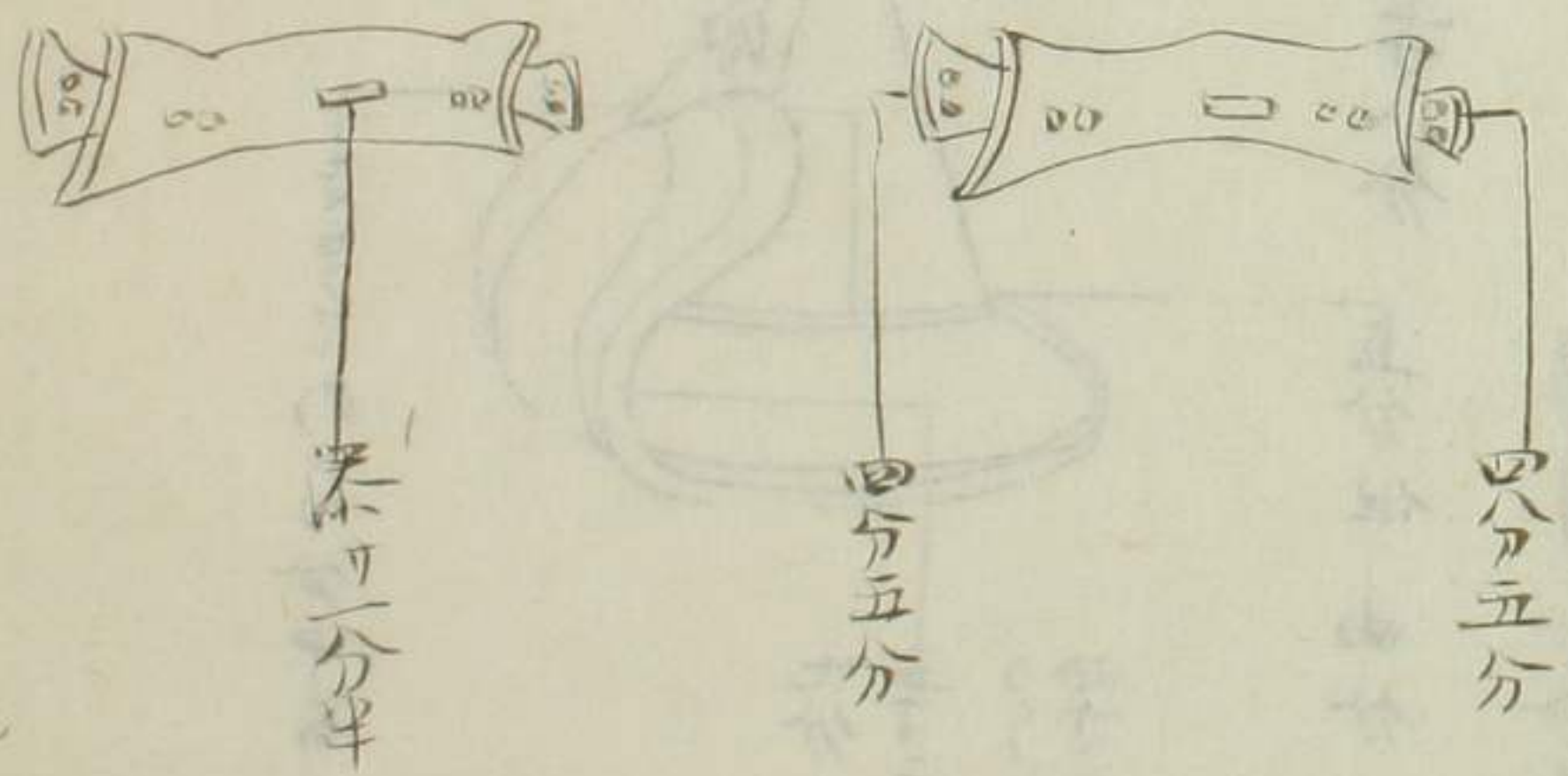
西ノ丸

中込及収重個判形

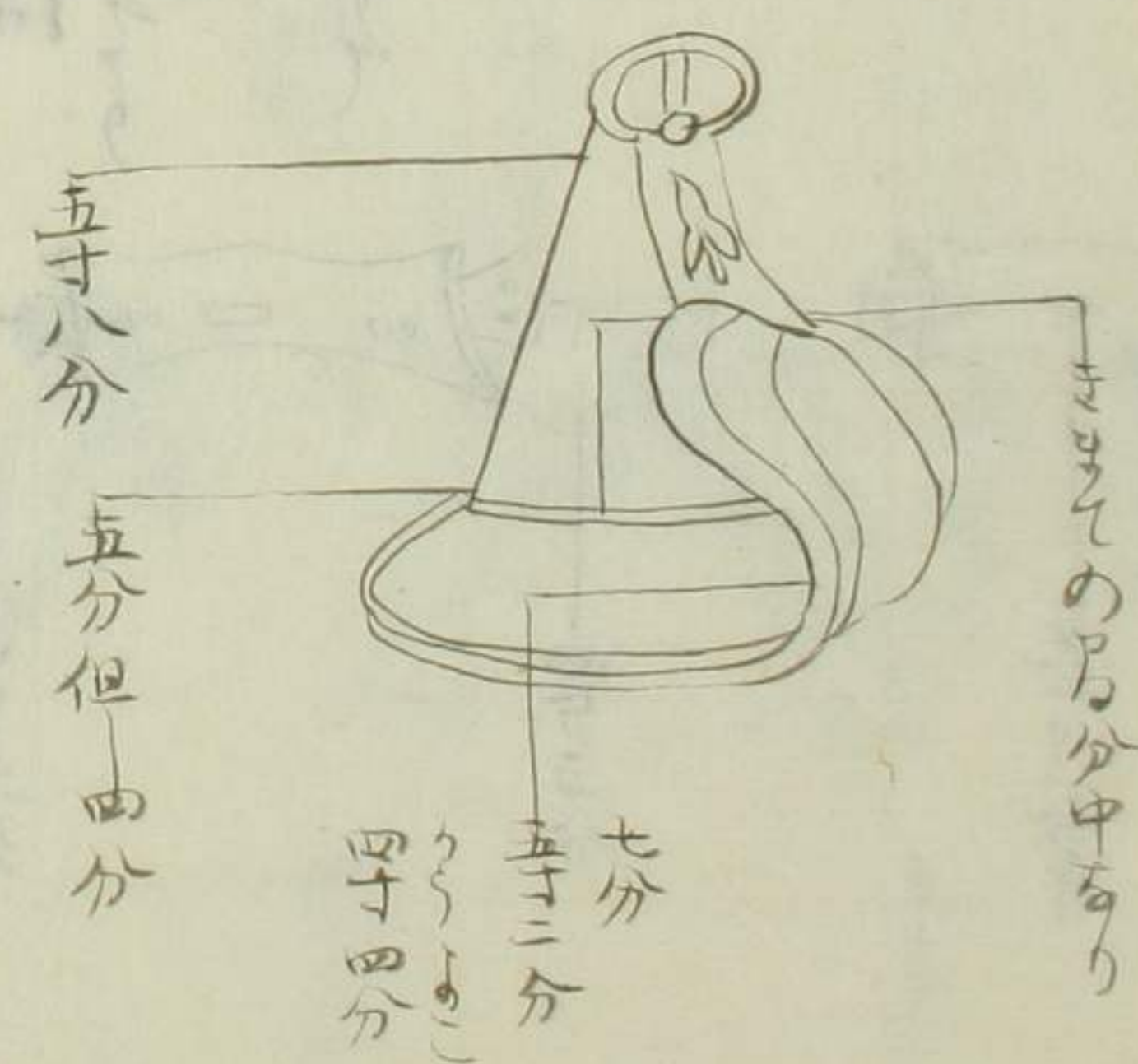
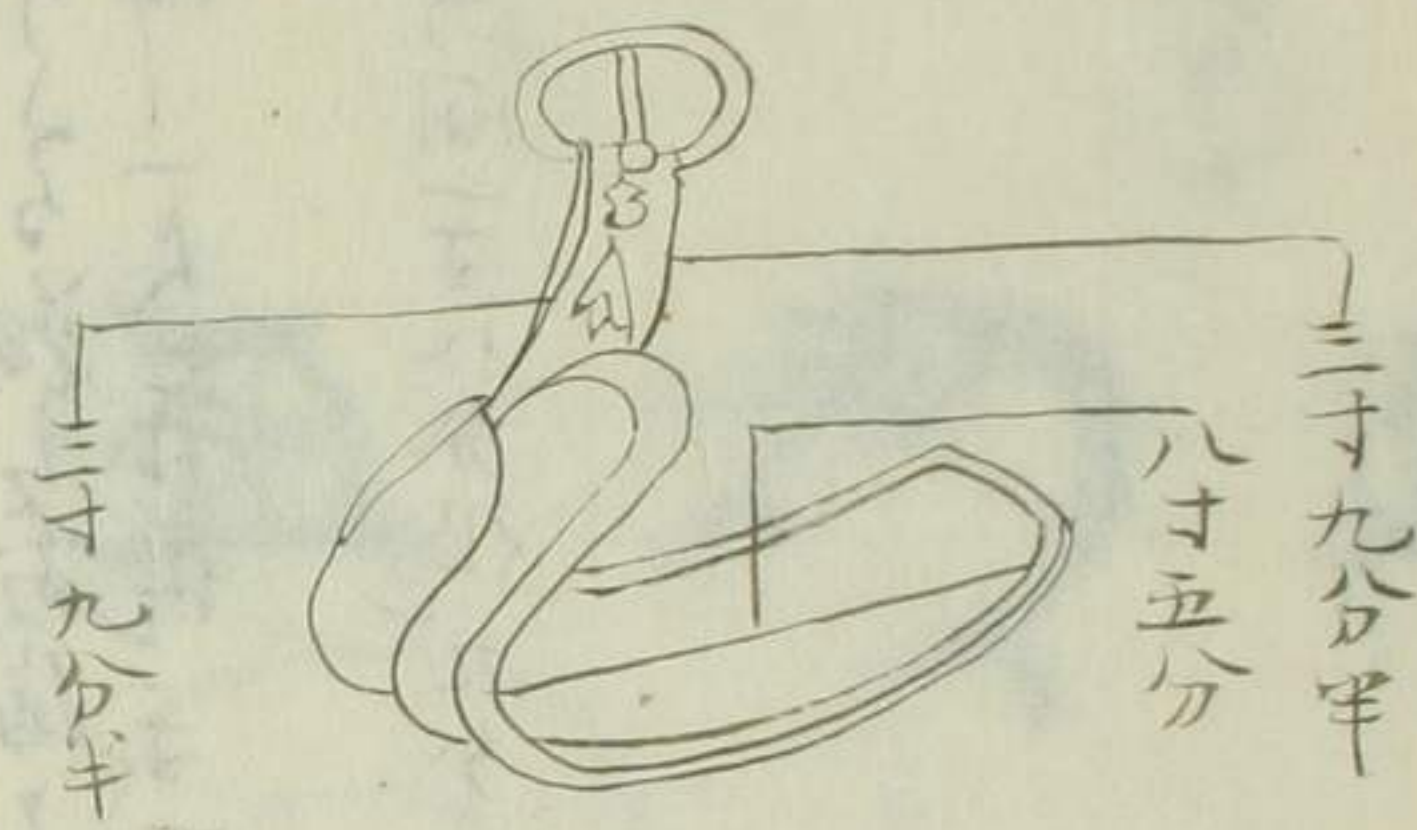
堅



志をりたる御まお梅と徳臨の間
 一丁九寸半一丁一分半とをり
 九分
 あいぞの間一丁八分半九分より一丁五分



要馬秘極集卷之四



嗜用之巻終

